

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念を事務所に掲示し、毎日申し送り時に職員全員で唱和している。</li> <li>・新人職員にオリエンテーション時、理念を伝えている。</li> </ul>	理念を事務所に掲示し、朝礼時には日々の自己を振り返る意味を込め、職員全員で唱和している。また、月間目標を職員が交代で作成し、各自で独自作成の月間目標達成表を利用して、自己評価(確認)している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の方に野菜作りを教えて頂いたり、ホームの行事にお誘いしたり、地域の行事に参加したりしている。</li> <li>・避難訓練は近所の方にも参加して頂いている。</li> <li>・イルミネーションは近所の方にも好評である。</li> </ul>	近隣住民から事業所の畑のアドバイスをもらったり、散歩中に近隣の方と会話したり、夏祭りに地域の神輿が来てくれたりしている。去年から始めたクリスマスイルミネーションがとても好評であり、近隣の子供達にも「あずみ」の名前を知ってもらい、良い機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流までで支援の方法の発信までは出来ていない。</li> </ul>	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員、ご家族、地域包括支援センター職員の参加で様々な意見交換をし、サービス向上に活かすよう取り組んでいる。</li> </ul>	2ヶ月に1回、開催している。現状報告が多かったが、避難訓練後に会議を行うことで、参加してくれる層が広がり、反省を交えた意見交換や、ご家族から入居前後の気持ちや体験談等も伺うことができています。集まってよかったと思える会議を目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問、相談など必要がある場合には連絡するようになっているが、頻度としては少ない。</li> </ul>	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加しており、情報交換や利用者の紹介等、随時連携している。市町村との関わりは、書類やケアサービスに関する質問や相談をする程度である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束についての研修に参加したり、あずみ内に身体拘束委員会を設置し、あずみ独自のマニュアルを作成、職員に周知している。</li> <li>・建物の玄関は日中施錠していない。</li> </ul>	身体拘束委員会を設置し、拘束マニュアルを作成している。玄関は日中施錠しておらず、自由に庭内に出る事ができる。転落・転倒防止のため、夜間のみベッド柵を使用している利用者がいるが、家族の同意や医師の指示の下、設置している。また、必要かどうか、定期的に見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修に参加することにより、高齢者虐待防止法などについて学び、内容を職員に周知し、日々注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修に参加し、学ぶ機会を設けている。 実際に成年後見人制度を利用している入居者の方が2名おられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、重要事項説明書、運営規定について説明し質問を受けるようにしている。 ・状態の変化等により契約解除に至る場合は、家族等と相談し納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進委員会に参加して頂き、意見をだしてもらったり、面会の際に希望、要望を言って頂きやすい雰囲気づくりを心がけている。 ・入居者の方にも常に声かけし、希望を聞くようにしている。	家族の面会時や運営推進会議を利用して、意見や要望を聞くようにしている。できることにはすぐに対応し、検討が必要な場合は、施設長が本部と相談しながら決定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議には代表者も出来る限り参加するようにしている。 ・ユニット会議、各委員会を定期的に行い、話し合いの場をもうけている。	職員からの意見や提案は、職員会議やユニット会議で話し合われ、検討されている。また、委員会（給食・感染・拘束等）を設置し、意見を出し合っている。決定は本部で行うが、敬老会に東京からチェロ奏者を招待したり、トイレや脱衣所に暖房を設置する等、職員からの提案が実際に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・毎日の業務報告、会議への参加などにより現場運営を把握している。 ・職員の資格取得の支援を行っている。 ・年2回人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修参加への支援。 ・新人職員に対し、ケアの技術、利用者との関わり方について丁寧に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・近隣のグループホームで作っている交流会に定期的に参加し、情報交換、勉強会の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを詳しく取り、声かけ、気配りをより細かく行い、寄り添うことで信頼関係を築いて行くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族とゆっくと話をする時間を持ち、あずみの方針をしっかりと伝え、入居後はなるべく面会の機会を持って頂くようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設の情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人ひとりの方があずみの生活の中で、役割を持っていただく。料理などの家事、まとめ役、賑やかに盛り上げる役、大黒柱として座っている役など。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは密に連絡をとり、問題、情報等共有し、ケアプラン作成にも参加して頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方が面会しやすい環境を作っている。(挨拶など)	ドライブで自宅周辺を回ったり、本人の希望で外食(ラーメン等)に出かけたりしながら、馴染みの関係作り・継続支援に努めている。	秋祭りの時期になると、参加したい(行きたい)と話す入居者もあり、簡単ではないと思うが、本人の思いを少しでも実現できる体制作りが出来る事を今後に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで皆さん集まられている時は適度に職員も中に入り、話を繋ぐようにしている。プライバシーを尊重しながら無理強いない程度にフロアや行事にお誘いする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先への訪問、あずみへの訪問を受ける等お付き合いが続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での言葉、態度などから希望、意向をくみ取るようにしてる。 ケア会議、朝礼時の申し送りにも議題として取り上げ、職員全体が周知している。	アセスメントシートとは違う、事業所オリジナルの「○○さんってこんな人シート」を作成し、日常生活の中で何気ない会話の内容や利用者が発した言葉をシートに記入している。その中から利用者の生活歴や思いを知り、また、職員全員で把握・共有することで、入居者の思いに添った支援に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはしっかりとアセスメントを取り、個人ファイルに綴じ、職員はいつでも閲覧できるようにし、入居後もさりげない質問により、状況の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、健康チェック表、ケアプラン実施表に記録し、毎日の申し送りにて職員が状況を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、入居者担当職員は、本人、家族の希望、要望を取り上げ、他ユニットの職員も参加してカンファレンスを開き、介護計画を作成している。	定期的にあセスメントを行い、ケアカンファレンスにて職員で意見を出し合い、ケアプランを作成している。ケアプランを一覧表にしており、毎日、実施できたかどうかモニタリングを行い、達成状況を見ながらケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアプラン実施表、経過記録の記入をケアプランのモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	偏食の多い方への代替食の提供。 個別での外食の実施。 通院、入院時の付き添い、必要時の家族の泊まりの受け入れなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に来て頂いている。(歌や踊り、囲碁の相手など)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時入居後もその都度本人、家族に医療機関について記号を聞き、かかりつけ医を決めている。定期的な往診、健康診断を受けている。	提携医療機関の往診(週2回)を基本としているが、家族の希望により、以前からのかかりつけ医に受診している方もいる。また、訪問看護ステーションと連携し、月2回の訪問時に状態の報告や相談を行っている。歯科往診は随時行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護があり、バイタルチェック、医療相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の病院への訪問や電話連絡等により家族や病院関係者との情報交換を常に行い、退院前のカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時入居後も、ホームの方針をしっかりと伝え、重度化により転居が必要な場合、転居先を探すなどの支援をしている。 現在ターミナルケアは行っておらず、それについての説明も入居時に行っており、了承頂いている。	現在、終末期ケアは行っていないが、重度化した場合のサポートとして、次の転居先を紹介するなど、本人や家族に不安を感じさせないように努めている。管理者は外部の講習会等に参加し、終末期ケアに対する知識を高めている。	現在、終末期ケアには取り組んでいないが、管理者は外部の講習会に参加する等、前向きにとらえており、今後の取り組みに期待したい。また、体制作りとして管理者から職員へ内部研修を行うなど、スキルアップを図ってほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。 消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を、職員、入居者、家族、近隣の方に参加して頂き行っている。 災害時の協力を近所の方、町内会長、民生委員の方などをお願いしている。	年2回、近所の住民にも参加して頂き、避難訓練を実施している。前回の避難訓練では火災発生時に早く近隣に知らせることができるよう、サイレンなどの道具を使ってはどうか等の意見が住民から出ている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室、入浴時の脱衣室に入る時など、声かけ、ノックを必ずするようにしている。 反省点として、介助時の声かけに配慮が足りないことがある。(排泄の誘導時など)	利用者と同じ目線に立ち、その人に合わせた言葉使いをするよう心掛けている。また、排泄や入浴時には、必ず本人に声かけし、確認してから介助するよう努めている。決して無理強いしないよう取り組んでいる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方の目線、ペースに合わせ、話しやすい環境作りを心がけている。失語症のある方などには表情をくみとるなどの対応をしている。 食事の好みなど希望を聞くようにしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や場所など希望を尊重する。 入浴などには無理強いはいらないが、夜間入浴、好きな時に外出したいなどの希望には対応出来ていない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回の訪問理美容活用。パーマをかけられたり、髪をそめたり、希望に沿う対応をしている。 女性にはお化粧をして頂くこともある。 外出時には一緒に服を選ぶようにしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭の畑の野菜をみなさんと収穫したり、木になっている柿やミカンを取り、食事やおやつ時に話をしながら食べている。 食事の準備や片付けは入居者と一緒に行っている。	献立や食材は業者に依頼し、調理は職員が行っている。温かい物を温かい状態で提供している。 庭の畑にはキャベツや水菜など、季節の野菜が育っており、食事に使うことも多い。訪問した日のおやつは畑で採れたサツマイモを庭で焼いた焼き芋。利用者もアルミを巻くなど手伝っており、昼食の時から楽しみにしている様子だった。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師とも相談しながら個々に合わせた食事量、形態で提供している。摂取量は毎食健康チェック表に記入している。代替食品での対応、とろみ剤も使用している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、夜の義歯の洗浄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その人に合わせたトイレ誘導、介助を行っているが、介助時の配慮に欠ける部分もある(声かけ等)。	排泄チェック表を使用しながら、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。便秘症の方が多い為、食事や水分摂取、運動などに注意している。自然排便ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便を促すよう、水分摂取、運動の勧めを行っている。 自然排便困難な場合は医師に相談し、薬を服薬して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の強制はしないが、ある程度の時間帯は決まっており、希望に添えない事もある。(夜間入浴は出来ない) 女性の入浴は女性職員がなるべく介助するなど配慮をしている。	週3回の入浴を基本としている。リフト浴が設置されており、浴槽をまたぐことが出来ない方も湯船に浸ることができるよう配慮されている。決して無理強いせず、気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか寝つけない方には職員がベッドで添い寝をしている。 眠剤を使用している方には睡眠状況を把握し日中の活動の妨げになっていないかを確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬のお薬情報はファイルに綴じ、職員がいつでも閲覧できるようにしている。処方の変更時には介護日誌に記入、申し送りで伝達し、状態の変化に注意し、変化ある時は医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんで下さったり、食事の手伝い等率先して下さっている。 囲碁のお好きな方の為に近所の方にボランティアでお相手をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望に添うことはできないが好きな物を食べに出かけたり、買い物、お花見、いちご狩り、ドライブ、地域の夏祭りなどに出かけたりしている。シンフォニーホールへコンサートに出かけた事もある。	近所を散歩したり、ドライブしながら、入居者の希望に沿えるような外出支援を心掛けている。入居者全員での外出は少ないが、順番に日をずらしながら対応している。また、紅葉鑑賞等、家族と一緒に出かけられる機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外で本人が直接お金を払う機会はあまり持っていないがホームへ来るヤクルトの訪問販売時には商品を見て購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話して頂いている。 父の日、母の日、敬老の日にはご家族から手紙を送って頂き、皆さん大変喜ばれていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所、玄関などいつも季節の花を飾っている。 中庭で野菜や花を育てている。 空気清浄器、エアコン、床暖房など使用し、快適な温度を保っている。 リビングが広々とはしているが、生活感には欠けているかもしれない。	玄関を入ったところに利用者の作品を展示している。共有フロアは広く、木目調で落ち着いた雰囲気である。24時間、温度・湿度等の空調管理を行っており、いつフロアに来てても快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを置くなどし、個々にくつろげる場所を作っている。テーブル席は自分の場所と捉えている方が多い為、ある程度決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴れ親しんだ家具を持って来ていただいたり、写真やカレンダーを貼ったり、お花を飾ったりと工夫している部屋もあるが、中には殺風景に感じる部屋もある。	居室の床には絨毯が敷かれ、フロアから自分のお部屋に入ったという感じが、大変心地良い。馴染みの家具や仏壇、写真、お花、各自で作成した作品等で囲まれた空間は、利用者が過ごしやすい様に配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすを使用されている方が多い為、自由に自走し、移動して頂くためのスペースを確保している。居室、トイレ等には名前、文字を掲示し、分かりやすくしている。		